

**J**nclusive  
ournal  
of **E**ducation

Printed 2016.0830

ISSN 2189-9185

Published by Asian Society of Human Services



*August 2016*  
VOL. **1**

REVIEW ARTICLE

# 病弱・身体虚弱児に対応した教育課程の編成と指導の工夫に関する現状と課題

## Current Situation and Issues Related to Organization of the Education Curriculum and Devising of Educational Treatment of Children with Health Impairments

森 浩平<sup>1)</sup> (Kohei MORI)

1) 神田東クリニック/MPS センター/産業精神保健研究所  
(Kanda-Higashi clinic, MPS center, Institute of occupational mental health)

<Key-words>

病弱・身体虚弱児, 教育課程の編成, 指導の工夫, 個別の指導計画, 領域・教科を合わせた指導

(health impaired children, education curriculum, devising of support, individualized teaching programs, teaching of the combined region and the subject)

ktv\_m\_kohei@yahoo.co.jp (森 浩平)

Journal of Inclusive Education, 2016, 1:164-169. © 2016 Asian Society of Human Services

### ABSTRACT

本稿では、病弱・身体虚弱児に対応した教育課程の編成と指導の工夫に関する現状と課題について、文献のレビューを行った。病弱・身体虚弱に対応した教育課程の編成については、児童生徒の障害の程度や発達段階、各教科等の学習の特質を考慮して、各学校で創意工夫を生かした時間割や教育課程を組むことが必要であることが示唆された。また病弱・身体虚弱児の指導の工夫や配慮として、指導方法や授業形態、授業時間、集団構成の工夫や、身体活動の制限と経験の不足や偏りへの、共感的・受容的態度での支援といった、教育活動を行う上での今後の病弱教育において留意すべき点が挙げられた。

Received  
2016 / 7 / 31

Revised  
2016 / 8 / 6

Accepted  
2016 / 8 / 11

Published  
2016 / 8 / 30

## I. はじめに

「病弱」とは、何らかの病気にかかっているため体力が弱っている状態を表し、「身体虚弱」とは特に何かの病気にかかっているわけではないが、体が弱く、長期にわたり健康な子どもと同じように活動させると、健康を損なうおそれがある状態のことをいう。病弱児と身体虚弱児を教育の対象としているのが病弱・身体虚弱教育（以下、病弱教育）という。近年、病弱教育の対象となる児童生徒の病気の種類の多様化、入院期間の短期化、入退院の頻回化など、その状況が大きく変化してきた（長野，2008）。1962年に制定された就学基準が実態に合わなくなったため、学校教育法施行令などの見直しが行われ、2002年に現行の規定に改正された。また、2007年4月に学校教育法等の一部を改正する法律が施行され、名称が特別支援学校や特別支援学級に改められた。病弱教育の対象となる児童生徒の就学基準を表1に示す。

表1 病弱教育の対象となる児童生徒の就学基準

①特別支援学校（病弱・身体虚弱）
1 慢性の呼吸器疾患、腎臓疾患及び神経疾患、悪性新生物その他の疾患の状態が継続して医療又は生活規制を必要とする程度のもの
2 身体虚弱の状態が継続して生活規制を必要とする程度のもの
②病弱・身体虚弱特別支援学級
1 慢性の呼吸器疾患その他疾患の状態が継続的又は間欠的に医療又は生活の管理を必要とする程度のもの
2 身体虚弱の状態が持続的に生活の管理を必要とする程度のもの
③通級による指導（病弱・身体虚弱）
病弱又は身体虚弱の程度が、通常の学級での学習におおむね参加でき、一部特別な指導を必要とする程度のもの

病弱教育の場としては、特別支援学校（病弱・身体虚弱）、病弱・身体虚弱特別支援学級、通級指導教室（病弱・身体虚弱）がある。特別支援学校（病弱・身体虚弱）については、約95%が病院などの医療機関に隣接されているため、在籍者は当該病院に入院している児童生徒が大半であったが、近年は自宅学生も受け入れる学校が増加している（長野，2008）。医療機関との連携を密接に図りながら、幼稚園、小・中学校、高等学校に準ずる教育を行うとともに、病弱・身体虚弱に基づく学習上、または生活上の種々の困難を改善・克服できるようにすることを目指している。病状などにより、学校に通学して学習することが困難な状態の児童生徒については、病院内に設置した学級である分教室で指導を行ったり、病室や自宅を教員が訪問して指導を行ったりしている。

入院中の児童生徒のために近隣の小・中学校を本校（在籍校）として、病院内に設置された小・中学校の特別支援学級を院内学級という。文初特第294号「病気療養児の教育について（通知）」で、病気療養児の教育機関等の設置が示され、全国の国公立、私立大学付属病院内で教育が受けられるようになっている。入院の必要はなく、自宅等から通学可能な病弱・身体虚弱児の児童生徒には、小・中学校の中に特別支援学級が設置されている。通級指導教

室（病弱・身体虚弱）は、通常の学級に在籍し、ほとんどの授業を通常の学級で受ける児童生徒が、通級して健康状態の回復・改善や体力の向上を図るための特別な指導を受けている。

本稿では、病弱教育における病弱・身体虚弱児に対応した教育課程の編成と指導の工夫に関する現状と課題について明らかにすることを目的とし、文献のレビューを行った。

## II. 病弱・身体虚弱に対応した教育課程編成

学校の教育課程とは、教育課程に関する法令に従い、学校教育の目的や目標を達成するために、教育内容を幼児児童生徒の心身の発達に応じ、授業時数との関連において教育内容を総合的に組織した学校の教育計画である。基本的には、小学校、中学校、高等学校又は幼稚園に準じた教育課程が編成されますが、個々の幼児児童生徒の実態により、以下のような複数の教育課程が編成される。教育課程の編成には、ア 小学校・中学校の各教科の各学年の目標・内容等に準じて編成・実施する教育課程、イ 小学校・中学校の各教科の各学年の目標及び内容を当該学年（学部）よりも下学年（下学部）のものに替えて編成・実施する教育課程、ウ 小学校・中学校の各教科又は各教科の目標及び内容に関する事項の一部を特別支援学校（知的障害）の各教科又は各教科の目標及び内容の一部によって、替えて編成・実施する教育課程、エ 各教科、道徳若しくは特別活動の目標及び内容に関する事項の一部又は各教科若しくは総合的な学習の時間に替えて、自立活動を主として編成・実施する教育課程、オ 家庭、施設又は病院等を訪問して教育する場合の教育課程がある。この場合、オの訪問教育は教育形態の一つであり、教育課程としては、上記ア～エを含んでいる。各学校は、児童、生徒の実態に則した教育目標を設定し、上記の教育課程をもとに、柔軟性を保ちながら創意工夫を凝らし日々の教育活動を進めている（堀田・多鹿・堀田ら，2014）。こうした児童、生徒の社会参加と自立を目指す特別支援学校での教育課程において教科学習の位置づけは流動的である。社会の中で生きる力を育成することが、生活単元、日常生活、遊び、作業学習といった「領域・教科を合わせた指導」の授業内容にのみ焦点化されており、教科学習が隅に追いやられていることを危惧する主張も一部みられる（渡辺，2009）。

対象となる子どもたちの主な疾病等の種類は、時代と共に大きく変化し続け、現在、かなり多様化している（病気療養児の教育に関する調査研究協力者会議,1994；全国病弱養護学校長会,2000；全国病弱養護学校長会,2001；中井,2001；文部科学省,2002；山本,2002）病弱・身体虚弱教育対象の幼児児童生徒は、病気や障害の状態が多様であり、高等部を卒業する段階でそのまま病院に継続入院する者や福祉施設に入所する者、就職、大学等に進学する者まで様々である。病気や障害の状態が多様化し、重度・重複化する中で、上記ア～エの教育課程の類型を用意することによって様々な幼児児童生徒の多様なニーズに対応できると考えられており、いずれの類型にも合致しない幼児児童生徒や教育課程の類型の狭間にいる幼児児童生徒に対しては、個別の指導計画により、より個に応じた教育内容、方法が準備されることが必要となる。

また、個別の指導計画による指導が行いやすいよう、授業時数なども学習の状況、病状等、個に応じて配当できるようにするなど、教育課程の運用を柔軟にしていく必要があり、これら実現には、学習指導要領、教育課程の編成、年間指導計画、個別の指導計画の作成のつながりを明確にし、全教職員が共通理解を図ることが重要となる（国立特別支援教育総合研究所，2011）。

授業時数等の取扱いについて、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領では、「小学部又は中学部の各教科等のそれぞれの授業の1単位時間は、各学校において、児童又は生徒の障害の状態や発達段階及び各教科等や学習活動の特質を考慮して適切に定めるものとする。」、特別支援学校高等部学習指導要領では、「各教科・科目等のそれぞれの授業の1単位時間は、各学校において、各教科・科目等の授業時数を確保しつつ、生徒の実態及び各教科・科目等の特質を考慮して適切に定めるものとする。」と明記されている。また、時間割についても、「各学校においては、地域や学校、児童又は生徒の実態、各教科等や学習活動の特質等に応じて、創意工夫を生かし時間割を弾力的に編成することができる。」とされる。これらの規定は、児童生徒の障害の程度や発達段階、各教科等の学習の特質を考慮して、各学校で創意工夫を生かした時間割や教育課程を組むことを可能とするものである。

### Ⅲ. 病弱・身体虚弱児の特性と指導の工夫、配慮事項

文部科学省（2015）は、各教科の目標や内容、指導計画の取扱いは小・中学校及び高等学校に準じ、指導計画の作成と各学年にわたる内容の取扱いにあたっては、児童生徒の障害の状態や特性を十分考慮するとともに、病弱者である児童に対する教育を行う特別支援学校において次の事項（表2）に特に配慮するようとしている。

表2 病弱児である児童に対する教育を行う特別支援学校における各教科の配慮事項

- ① 児童の授業時数の制約や病気の状態等に応じて、指導内容を適切に精選し、基礎的・基本的な事項に重点を置くとともに、各教科等相互の関連を図ったり、指導内容の連続性に配慮した工夫を行ったりして、効果的な学習活動が展開できるようにすること。
- ② 健康状態の改善等に関する内容の指導に当たっては、特に自立活動における指導との密接な関連を保ち、学習効果を一層高めるようにすること。
- ③ 体験的な活動を伴う内容の指導に当たっては、児童の病気の状態や学習環境に応じて指導方法を工夫し、効果的な学習活動が展開できるようにすること。
- ④ 児童の身体活動の制限の状態等に応じて、教材・教具や補助用具などを工夫するとともに、コンピューター等の情報機器などを有効に活用し、指導の効果を高めるようにすること。
- ⑤ 児童の病気の状態等を考慮し、学習活動が負担過重とならないようにすること。

病弱教育対象の児童生徒は、病気療養上の理由により、授業時間数の制約を受けたり、病状により身体活動や学習上の制約を受けている。また、症状により学習場所が限定されたり、教材教具が制限（生き物等の保菌教材の禁止や食事制限による調理実習の制約）されている場合もある。こうした制約の中で、小嵐（2005）はより充実した学習ができるよう、教材・教具や補助用具の開発や活用、IT機器などの情報機器の活用など、指導方法の工夫の必要性について述べている。また小嵐（2005）は児童生徒の学習の進度（習熟度）や病気の状態、学級構成員を考慮した授業形態や集団の構成を工夫し、学習活動が効果的に行われることが必要としている。そのために、児童生徒一人ひとりの学習の空白や進度（習熟度）に応じた個別指導を重視し、必要に応じて複数の学年・学級の合併や病気の種類別のグループ編成による指導を行うことがある。

また、身体活動の制限があると、遊びや生活体験が不足したり偏ったりすることから、学習レディネス（あることを学習するとき、これを習得するために必要な条件が用意され、準備されている状態）が阻害されることや、概念形成が十分にできていない、物の使い方等の基本的事項が備わりづらい、といった場合があり、学習内容に興味関心が持てなかったり、学習意欲が低下したりすることが指摘されている（長野，2008）。心臓や腎臓、呼吸器疾患などの運動制限がある児童生徒への身体活動においては、学校生活管理指導表（日本学校保健会，2002）を参考として、身体への負担が軽い内容から順次配列するよう指導計画を作成することができる。

病気の進行に伴って、身体的に出来なくなることが増えたり、病気の予後が良くない場合には、精神的ショックや劣等感、悩みや情緒不安定を抱えやすくなり、心理的な配慮が必要となる。長野（2008）はこのような児童生徒には、共感的・受容的態度で励ましながら、学習への意欲を失うことがないように支援することが必要であるとしている。また、生きがいにつながる課題を見出し、QOLの観点からも有意義な生活を送ることができるような支援の必要性についても述べている。

本稿では、病弱・身体虚弱児に対応した教育課程の編成と指導の工夫に関する現状と課題について、文献のレビューを行った。病弱・身体虚弱児に対応した教育課程の編成については、児童生徒の障害の程度や発達段階、各教科等の学習の特質を考慮して、各学校で創意工夫を生かした時間割や教育課程を組むことが必要であることが示唆された。また病弱・身体虚弱児の指導の工夫や配慮として、指導方法や授業形態、授業時間、集団構成の工夫や、身体活動の制限と経験の不足や偏りへの、共感的・受容的態度での支援といった、教育活動を行う上での今後の病弱教育において留意すべき点が挙げられた。

## 文献

- 1) 病気療養児の教育に関する調査研究協力者会議(1994) 病気療養児の教育について（審議のまとめ）.
- 2) 堀田千絵・多鹿秀継・堀田伊久子・八田武志(2014) 幼児期からの発達を踏まえた知的障害、発達障害、病弱、肢体不自由児者に対する算数科の教育課程の創成と効果的な指導法についての事例及び文献的検討. 人間環境学研究, 12(2), 125-134.
- 3) 文部科学省(2002) 就学指導資料.
- 4) 文部科学省(2008) 特別支援学校小学部・中学部学習指導要領.  
[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/new-cs/youryou/tokushi/1284528.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/tokushi/1284528.htm)
- 5) 長野清恵(2008) 病弱児の支援－教育－. 岐阜大学教育学部特別支援教育研究会(編), 特別支援教育を学ぶ. ナカニシヤ出版, 92-103.
- 6) 中井滋(2001) 病弱教育担当教員の資質能力の向上を目指して. 特別支援教育, 3, 25-28.
- 7) 日本学校保健会(2002) 学校生活管理指導表.  
[http://www.hokenkai.or.jp/kanri/kanri\\_kanri.html](http://www.hokenkai.or.jp/kanri/kanri_kanri.html)
- 8) 小嵐恵子(2005) 特別支援学校(病弱)の各学部の教育の実践. 宮本信也・土橋圭子(編), 病弱・虚弱児の医療・療育・教育. 金芳堂, 202-215.
- 9) 国立特別支援教育総合研究所(2011) 病弱・身体虚弱児に応じた教育課程編成.  
<http://www.nise.go.jp/cms/13,0,47.html>

- 10) 渡辺実(2009) 教育実践で大切にしたいことと学習指導要領の改訂. 発達, 119, 65-72.
- 11) 山本昌邦(2002) 就学基準の改正と病弱教育ハンドブック.
- 12) 全国病弱養護学校長会(2000) 病弱教育ハンドブック.
- 13) 全国病弱養護学校長会(2001) 病弱教育 Q&A (1) 病弱教育の道標. ジアース教育新社.

## - Editorial Board -

Editor-in-Chief	Atsushi TANAKA	University of the Ryukyus (Japan)
Executive Editor	Changwan HAN	University of the Ryukyus (Japan)

Aiko KOHARA  
University of the Ryukyus (Japan)

Aoko CHINA  
National Institute of Vocational Rehabilitation  
(Japan)

Eonji KIM  
Hanshin PlusCare Counselling Center (Korea)

Haejin KWON  
Ritsumeikan University (Japan)

Hideyuki OKUZUMI  
Tokyo Gakugei University (Japan)

Iwao KOBAYASHI  
Tokyo Gakugei University (Japan)

Kazuhito NOGUCHI  
Tohoku University (Japan)

Keita SUZUKI  
Kochi University (Japan)

Kenji WATANABE  
Kio University (Japan)

Kohei MORI  
Kanda-Higashi Clinic, MPS Center (Japan)

Liting CHEN  
Sophia School of Social Welfare (Japan)

Mika KATAOKA  
Kagoshima University (Japan)

Mikio HIRANO  
Tohoku Bunka Gakuen University (Japan)

Nagako KASHIKI  
Ehime University (Japan)

Shogo HIRATA  
Ibaraki Christian University (Japan)

Takahito MASUDA  
Hirosaki University (Japan)

Takashi NAKAMURA  
University of Teacher Education Fukuoka (Japan)

Takeshi YASHIMA  
Joetsu University of Education (Japan)

Tomio HOSOBUCHI  
Saitama University (Japan)

Toru HOSOKAWA  
Tohoku University (Japan)

Toshihiko KIKUCHI  
Mie University (Japan)

Yoshifumi IKEDA  
Joetsu University of Education (Japan)

## Editorial Staff

- Editorial Assistants	Mamiko OTA	University of the Ryukyus (Japan)
	Sakurako YONEMIZU	Asian Society of Human Services

## Journal of Inclusive Education

**VOL.1 August 2016**

© 2016 Asian Society of Human Services

Editor-in-Chief Atsushi TANAKA

Presidents Masahiro KOHZUKI • Sunwoo LEE

Publisher Asian Society of Human Services

Faculty of Education, University of the Ryukyus, 1 Senbaru, Nishihara-cho, Nakagami-gun, Okinawa, Japan  
FAX: +81-098-895-8420 E-mail: ashs201091@gmail.com

Production Asian Society of Human Services Press

Faculty of Education, University of the Ryukyus, 1 Senbaru, Nishihara-cho, Nakagami-gun, Okinawa, Japan  
FAX: +81-098-895-8420 E-mail: ashs201091@gmail.com



Journal of Inclusive Education  
VOL.1 August 2016  
*CONTENTS*

**ORIGINAL ARTICLES**

- The Measurement of Educational Assessment and Psychology, Physiology and Pathology for Children with Physical Disability, Health Impairment .....Haejin KWON, et al. 1
- Effects of Weekday Café Program in Special Needs School; Using by Special Needs Education Assessment Tool (SNEAT)..... Yoshimi CHINEN, et al. 11
- Redefinition and Construct of Diversity Education..... Changwan HAN, et al. 19
- Remembering the Past Autobiographical Memories and Imaging the Future in an Adult with Amnesic Syndrome; The Role of the Involuntary Memory .....Mikio HIRANO, et al. 28
- Study for Construction of the Individual Education Support Model: Based on IN-Child Record ..... Mamiko OTA, et al. 35
- The Influence of the Degree of Others/Self-understanding of the Social Interaction in Children with ASD ..... Toru SUZUKI, et al. 48
- Study on the Expectation of the Student Volunteers to Assist in the Leisure and Learning for Hospitalized Children ..... Sachiyo YAMASHITA, et al. 54
- The Verification of the Reliability of the SNEAT10; The Study of Screening Scale for Inclusive Needs Child .....Aiko KOHARA, et al. 67
- Social Psychological Study for Motivations of Supports for Developmental Disorders by Members in Workplaces .....Hiroataka KUWAKI, et al. 74
- Description of Disability in the Sub-textbook on Morals for Elementary School Students ..... Atsushi TANAKA, et al. 85
- The Discrepancy in Members' Participation Purpose in the Self-help Group of Person with Disabilities and His/Her Family that Continues for Many Years: A Case of the Group for Down's Syndrome ..... Takahito MASUDA, et al. 92
- Current Situations and Issues of the Education for Disability Understanding in Higher Education ..... Haejin KWON, et al. 104
- Performance Analysis of Diversity Management using the Balanced Scorecard: Case Study of Japanese Companies Employing Disabled and the Elderly .....Moonjung KIM 114

**REVIEW ARTICLES**

- Special Needs Education in School Education Act and Services and Supports for Persons with Disabilities Act ..... Ryotaro SAITO 124
- Executive Function and Brain Pathology in People with Intellectual and Developmental Disabilities ..... Yoshifumi IKEDA 132
- Research Trends on Educational Support and Psychological Characteristics of the Children with Physical Disabilities ..... Kohei MORI 140
- Special Needs Education in The Elementary School Government Guidelines for Teaching and Nursery Childcare Indicator..... Ryotaro SAITO 146
- Basic Study about Development of the Education for Disability Understanding Index; Based on the Inclusive Education.....Haena KIM, et al. 155
- Current Situation and Issues Related to Organization of the Education Curriculum and Devising of Educational Treatment of Children with Health Impairments ..... Kohei MORI 164

**PRACTICE REPORT**

- A Report of the Project of Establishment of Educational Security Center for the Long-term Hospitalized Children in Ehime Prefecture..... Kosuke NAKANO, et al. 170

Published by  
Asian Society of Human Services  
Okinawa, Japan